教科名	社　会　科	科　目　名	地　理 歴　史
対象学年	中学１年	コース・選択等	——
単位数	３単位	教　科　書 （出版社）	『中学生の地理』　（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院） 『中学社会　歴史』　（教育出版）
使用教材	問題集『地理の学習１』（浜島書店） 問題集『ウイニング　歴史Ⅰ』（好学出版）　資料集『改訂　資料カラー歴史』（浜島書店）		
学習のねらい	地理 ・世界の自然、産業などを概観し、私達が生活する現代社会の地理的環境について基礎的な理解を図る。 ・世界の地域や国々の中から、幾つか選んで、自ら調べまとめて発表する能力を身につける。 歴史 ・原始・古代から中世に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。 ・日本史の背景となる世界史上の出来事についても、可能な限りとりあげ、歴史を同時代の横のつながりの中でとらえられるようにする。		

学習内容と流れ

学期・月等	単　　元	学期・月等	単　　元
４月 ５月	『中学生の地理』 第１部　世界と日本の地域構成 第２部　世界のさまざまな地域 第１章　人々の生活と環境 第２章　世界の諸地域 第１節　アジア州	11月 12月	『中学社会　歴史』 第２章　原始・古代の日本と世界 １　人類の出現と文明のおこり ２　日本の成り立ちと倭の王権 ３　大帝国の出現と律令国家の形成
６月 ７月	第２節　ヨーロッパ州 第３節　アフリカ州 第４節　北アメリカ州	１月 ２月 ３月	４　貴族社会の発展 第３章　中世の日本と世界 １　武家政治の始まり ２　ユーラシアの動きと武家政治の変化 ３　結びつく民衆と下克上の社会
９月 10月	第４節　北アメリカ州 第５節　南アメリカ州 第６節　オセアニア州		

学習の留意点・評価など	・地理は、地図帳の積極的な活用を心がける。 ・歴史は、学習内容に合わせて、地元の歴史（愛知県など）についても、随時取り上げる。

教科名	社　会　科	科　目　名	地　理 歴　史
対象学年	中学２年	コース・選択等	——
単位数	３単位	教　科　書 （出版社）	『中学生の地理』　（帝国書院） 『中学校社会科地図』（帝国書院） 『中学社会　歴史』　（教育出版）
使用教材	問題集『地理の学習２』（浜島書店） 問題集『ウイニング　歴史Ⅰ・Ⅱ』(好学出版) 資料集『改訂　資料カラー歴史』（浜島書店）		
学習のねらい	地理 ・日本の自然、産業などを概観し、私達が生活する現代社会の地理的環境について基礎的な理解を図る。 ・日本の地域の中から、幾つか選んで、自ら調べまとめて発表する能力を身につける。 歴史 ・近世から明治時代に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。 ・日本史の背景となる世界史上の出来事についても、可能な限りとりあげ、歴史を同時代の横のつながりの中でとらえられるようにする。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	学期・月等	単　　元
	４月	『中学生の地理』 第３部　日本のさまざまな地域 第３章　日本の諸地域 １節　九州地方	10月	『中学社会　歴史』 第４章　近世の日本と世界 １　結びつく世界との出会い
	５月	２節　中国・四国地方	11月	２　天下統一への歩み
			12月	３　幕藩体制の確立と鎖国
	６月	３節　近畿地方 ４節　中部地方	１月	第５章　日本の近代化と国際世界 １　近代世界の確立とアジア
	７月	５節　関東地方	２月	２　開国と幕府政府の終わり
	９月	６節　東北地方 ７節　北海道地方	３月	

学習の留意点・評価など	・地理は、地図帳の積極的な活用を心がける。 ・歴史は、学習内容に合わせて、地元の歴史（愛知県など）についても、随時取り上げる。

教科名	社　会　科	科　目　名	歴史・公民
対象学年	中学３年	コース・選択等	——
単位数	４単位	教　科　書 （出版社）	『中学社会　歴史』（教育出版） 『中学社会　公民』（教育出版）
使用教材	問題集『ウイニング　歴史Ⅱ』（好学出版）、『新ワーク　公民』（好学出版） 資料集『改訂　資料カラー歴史』（浜島書店）、『新しい公民』（浜島書店）		
学習のねらい	歴史 ・近代から敗戦・戦後に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。 公民 ・現代日本の政治・経済について基礎的な理解を図り、時事的な問題に対しても関心が持てるようにする。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	学期・月等	単　　元
	４月	『中学社会　歴史』 第５章　日本の近代化と国際社会 ３　明治維新と立憲国家への歩み ４　激動する東アジアと日清・日露戦争	10月	『中学社会　公民』 第１章　私たちの暮らしと現代社会 第２章　個人を尊重する日本国憲法 第３章　私たちの暮らしと民主政治 １　民主政治と日本の政治 ２　三権分立のしくみと私たちの政治参加
	５月	５　近代の産業と文化の発展 第６章　二度の世界大戦と日本 １　第一次世界大戦と民族独立の動き	11月	
	６月	２　大正デモクラシー ３　恐慌から戦争へ ４　第二次世界大戦と日本の敗戦	12月	３　地方自治と住民の参加
	７月		１月	第４章　私たちの暮らしと経済
	９月	第７章　現代の日本と世界 １　日本の民主化と冷戦 ２　世界の多極化と日本 ３　冷戦の終結とこれからの日本	２月	第５章　安心して豊かに暮らせる社会
			３月	第６章　国際社会に生きる私たち

学習の留意点・評価など	・歴史分野については、地域の素材も適宜取り上げる。 ・公民分野については、レポートなどを適宜課す。

教科名	地　歴	科　目　名	歴史総合
対象学年	高校１年	コース・選択等	必　修
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	明解歴史総合（帝国書院）
使用教材	明解歴史総合図説シンフォニア（帝国書院）		
学習のねらい	19世紀以降の世界と日本の歩みを「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」の観点から学び、当時の様子や人々の考えを理解し、現在まで続く課題とその解決について考え提案していく力を修得する。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　元	学　習　内　容	留意点
	４月	２部　近代化と私たち 18世紀までの世界 １章　江戸時代の日本と結び付く世界 ①アジアのなかの江戸幕府 ②成熟する江戸社会 ③清の繁栄と結び付く東アジア ④アジア・アフリカに向かうヨーロッパ	18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解する。 「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察する。 18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結びついていたかに着目する。
	５月	２章　欧米諸国における近代化 ①イギリスの革命とアメリカの独立 ②フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開 ③フランス革命の影響と国民意識の芽生え ④産業革命で変わる社会 ⑤イギリスの繁栄と国際分業体制 〈１学期中間テスト〉	市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について理解する。 市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し表現する。 市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのかに着目する。
	６月	３章　近代化の進展と国民国家形成 ①1848年～近代ヨーロッパの転換点 ②イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 ③アメリカの拡大と第２次産業革命 ④帝国主義と世界の一体化 ４章　アジア諸国の動揺と日本の開国 ①「西洋の衝撃」と西アジアの変化 ②南・東南アジアの植民地化 ③ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 ④黒船の来航と日本の対応⑤新体制の模索と江戸幕府の滅亡	国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について理解する。 国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し表現する。 国民国家や帝国主義が現代社会に与えた影響と課題について考察する。 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解する。 「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し表現する。 欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	近代化が進むなかで、欧米諸国はどのような国家形成をしていったかに着目する。 近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのかに着目する。

	学期・月等	単　　元	学　習　内　容	留意点
学習内容と流れ	7月	〈1学期期末テスト〉 5章　近代化が進む日本と東アジア ①新政府の誕生 ②近代国家を目指す日本	明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、理解する。 明治維新の歴史的意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し表現する。 明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化していったのかに着目する。
	9月	③日本と清の近代化と日清戦争 ④列強の中国進出と日露戦争 ⑤日露戦争が与えた影響 3部　国際秩序の変化や大衆化 1章　第一次世界大戦と日本 ①ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 ②総力戦となった第一次世界大戦 ③ロシア革命と大戦の終結	世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、理解する。 ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現する。 世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのかに着目する。
	10月	〈2学期中間テスト〉 2章　国際協調と大衆社会の広がり ①ヴェルサイユ体制の成立 ②東アジアの民族自決の行方 ③中東・インドの民族自決の影響 ④ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 ⑤大衆社会の出現とアメリカの繁栄 ⑥日本における大衆社会の形成	ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解する。 新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現する。 ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものかに着目する。
	11月	3章　日本の行方と第二次世界大戦 ①世界恐慌が与えた影響 ②ファシズムの台頭と拡大 ③政党政治の断絶と満州事変 ④日中戦争の始まり	世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解する。 ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現する。 世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのかに着目する。
	12月	2学期期末テスト ⑤第二次世界大戦の展開 ⑥戦局の悪化と被害の拡大 ⑦第二次世界大戦の終結とその惨禍	世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解する。 ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現する。 世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのかに着目する。

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	学　習　内　容	留意点
	1月	4章　再出発する世界と日本 ①戦後の新たな国際秩序 ②冷戦の始まり ③日本撤退後の東アジア ④日本の改革と独立の回復 4部　グローバル化と私たち 1章冷戦で揺れる世界と日本 ①アメリカ・ソ連の緊張と緩和 ②冷戦下における日本の復興 ③第三勢力の形成と脱植民地化 ④中東問題とパレスチナ問題	冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解する。 国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現する。 ③大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのかに着目する。
	2月	2章　多極化する世界 ①揺らぐアメリカと先進各国の変化 ②「経済大国」日本の模索 ③経済発展に取り組むアジア・南米諸国 ④イスラーム復興と冷戦への影響 3章　グローバル化の中の世界と日本 ①冷戦の終結と変わる世界構造 ②冷戦の終結が与えた世界への影響 ③超大国アメリカと中東情勢 ④国際環境の変化と日本	冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解する。 各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、みずからの言葉で表現する。 冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような経済成長を遂げたかに着目する。
	3月	⑤グローバル化による国際社会の変容 〈学年末テスト〉	冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解する。 グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現する。 冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	冷戦が終わり、グローバル化は、世界をどのように変えたかに着目する。
学習の留意点・評価など	写真や歴史的絵画使用等の非連続型テキストを読み取る活動を取り入れ、考える歴史の学習へと導く。また、読み取ったことは、できるだけ文章で表現する機会を設ける。非連続型テキストは、プロジェクターを利用し、スクリーンに投影することで観察しやすくする。			

教科名	地　歴	科　目　名	地 理 総 合
対象学年	高校２年	コース・選択等	コースⅠ、必修
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	新地理総合（帝国書院）
使用教材	新地理総合（帝国書院） 現代地図帳（二宮書店）新詳地理資料COMPLETE2026（帝国書院）		
学習のねらい	世界の諸地域の地形、気候など自然環境の特徴を知る。そして、各地域の人々がどのような工夫をして暮らしやすい社会・文化を形成しているかを知る。単に各地域の特色を知るだけに終わることなく、各地域の特色を比較しながら学ぶことや、地理的事象を生み出す多様な要因の相互関係を考察することを目指す。		

学習内容と流れ

学期・月等	単　　元	学　習　内　容	考える力
４月	地図上の位置と時差 現代世界の国家 日本の位置と領域	・緯度・経度の仕組みについて学ぶ。緯度や経度の違いが、世界各地の暮らしのあり方に影響を与えていることを理解する。 ・国家の主権や領域について理解する。 ・国境にはさまざまな形態や性格があることに気づかせる。 ・日本の位置と領域を確認する。	地球の公転をモデルを使って確かめる。 主権については、歴史総合で学んだことと関連づける。
５月	変動帯とプレート 地震の種類 大気大循環	・変動帯とプレートの関係について知る。 ・３種類のプレート境界の違いを理解する。 ・日本周辺のプレートを確認する。 ・地震の種類と違いを理解する。 ・大気大循環のしくみを理解する。	動画を活用して、プレートの動きや大気の循環の仕組みの理解を促す。
６月 〜 ７月	世界の気候と 人々の生活 ○植生と気候分布 ○熱帯の生活 ○乾燥帯の生活 ○温帯の生活 ○亜寒帯・寒帯の生活	・ケッペンの気候区の特徴をつかみ、理解する。 ・各気候帯の気候の特色と人々の暮らしのあり方を結びつけて考える。 ・気候帯の特色を他の気候帯と比較しながら理解する。 ・プロジェクト：「民族模様を探究する」を行う。３学期に成果発表会を行う。	写真の資料を読み取って、気候と暮らしの特色を考察する。
９月	モンスーンの影響を受ける地域での生活 ―東南アジア―	・東南アジアの多様な民族と文化について理解する。 ・東南アジアの歴史や、植民地支配とモノカルチャー経済との関係について理解する。その上で、モノカルチャー経済から脱却するため、各国でどのような農業・工業政策が進められてきたかを考える。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。東南アジアの国々の共通点と相違点を考える。

	学期・月等	単　　元	学　習　内　容	考える力
学習内容と流れ	10月〜12月	世界の言語・宗教と人々の生活	・言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解する。 ・宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて理解する。 ・世界の三大宗教をはじめとする主要な宗教の特徴や、それらが信仰されている地域の分布を捉え、宗教と人々の生活との関わりについて考える。	三大宗教を比較して共通点と相違点を考える。
		イスラームと人々の生活の関わり ―中央アジア・西アジア・北アフリカ― ヒンドゥー教と人々の生活の関わり ―インド―	・イスラームの歴史やイスラームが人々の生活にどのような影響を与えているかを考える。 ・この地域の産油国が、石油資源の開発と利用をどのように進めてきたかを理解する。 ・「ヴァルナ」「ジャーティ」「カースト」の諸概念の関係を理解する。 ・インド世界と呼ばれる南アジアの国々の歴史と、異なる宗教の対立があったことを理解する。 ・インドの農業の展開を、自然環境や技術革新などから理解する。 ・成長するインドの工業と、経済発展をリードしているIT産業について理解する。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。インドの近代化にともなうカースト制の変遷に着目する。
		植民地支配の歴史と人々の生活の関わり ―サハラ以南アフリカ―	・ヨーロッパ諸国による植民地支配の歴史と、モノカルチャー経済などに代表される、その影響について理解する。	チョコレート生産の仕組みを通してモノカルチャー経済への理解を深める。
	1月〜3月	人々の生活を支える産業とグローバルな結びつき ―アメリカ合衆国―	・移民の歴史に注目し、多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。 ・アメリカ合衆国の自然環境に適した農業・地域の特徴とその背景について理解する。その上で、現在の課題について考える。 ・アメリカ合衆国における工業の変遷と課題について考える。	・時事問題と結びつけながら多民族・多文化社会の課題を考える。
学習の留意点・評価など	映像資料を利用し、世界の文化や暮らしの様子を具体的にイメージしやすいように工夫する。 各国の文化や社会の特色を考えさせる際に、思考ツールを利用させることで比較・分析を容易にする。			

教科名	地　歴	科　目　名	地 理 総 合
対象学年	高校２年	コース・選択等	コースⅡ・Ⅲ、必修
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	新地理総合（帝国書院）
使用教材	新地理総合（帝国書院） 現代地図帳（二宮書店）新詳地理資料COMPLETE2026（帝国書院）		
学習のねらい	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的･多角的に考察させる。また、地理的課題の解決に向け、解決策を構想することや、考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論する資質を育成する。これらの学習を通じて、世界の人々とともに共生することができるグローバルシティズンとしての資質を高める。		

学習内容と流れ

学期・月等	単　　元	学　習　内　容	考える力
４月	地図上の位置と時差 地図の役割と種類	・緯度・経度の仕組みについて学ぶ。緯度や経度の違いが、世界各地の暮らしのあり方に影響を与えていることを理解する。 ・世界地図の図法を学ぶ。 ・国家の領域について理解する。 ・国境にはさまざまな形態や性格があることに気づかせる。	・各種統計資料を読み取り、社会的事象の因果関係を考察する。 ・グローバル化が進み、多くの情報が得られ、日本の文化・習慣が変化している。その中で、日本の文化・慣習がなぜ異なるのか社社会背景を理解して、比較考察する。 ・交通手段の発展により、世界各国のつながりの変遷を考察する。
５月	現代世界の国家と領域 グローバル化する世界	・東西冷戦の終結とともに国家間の結びつきが軍事的結合から経済的結合へと変化したことを理解する。 ・航空交通の発達により、地球規模での国際交流が活発化したことを理解する。 ・貿易の自由化が進められ、地域内の経済的結びつきを強める協定が拡大していることを理解する。 ・日本における観光の国際化について考察する。	
６月	世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活	・河川、波や氷河がつくる地形の種類や特徴と人々の生活との関係を理解する。 ・気候の特徴と人間生活との関わりについて考察する。 ・ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。 ・各気候区の分布や特徴を理解し、それが人々の暮らしにどのような影響を与えているかを考える。	・各気候区の雨温図を読み取り、共通点と相違点を文章で表現する。 各気候区の暮らしの特徴を比較する。
７月		・農業の発達と自給的農業・商業的農業について理解する。 ・さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する。 ・世界の三大宗教をはじめとする主要な宗教の特徴や、それらが信仰されている地域の分布を捉え、宗教と人々の生活との関わりについて考える。	・農業・工業がどのような背景のもと発展してきたのか考察する。 ・近年の発展途上国の発展による課題を考察する。 ・三大宗教の特色の共通点と相違点を考える。

	学期・月等	単　　元	学　習　内　容	考える力
学習内容と流れ	9月	世界の言語・宗教と人々の生活 資源エネルギー問題 人口問題 都市・移住問題	・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。	世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
	10月	経済成長による人々の生活の変化 ―東アジア― モンスーンの影響を受ける地域での生活 ―東南アジア―	・内陸部と沿海部、北部と南部の違いに注目して、中国の自然環境の地域差を考察する。 ・中国が多民族国家であることや、その民族の分布の特徴を捉える。 ・巨大な人口をもつ中国の人口問題とその解決への取り組みを理解する。 ・中国の現代の農業と工業の現状と課題について考える。 ・韓国の歴史、文化、産業の特色を理解する。 ・東南アジアの多様な民族と文化について理解する。 ・東南アジアの歴史や、植民地支配とモノカルチャー経済との関係について理解する。その上で、モノカルチャー経済から脱却するため、各国でどのような農業・工業政策が進められてきたかを考える。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。東アジアの国々の共通点と相違点を考える。
	11月	ヒンドゥー教と人々の生活の関わり ―インド― イスラームと人々の生活の関わり ―中央アジア・西アジア・北アフリカ―	・インド世界と呼ばれる南アジアの国々の歴史と、異なる宗教における対立があったことについて理解する。 ・インドの農業の展開を、自然環境や技術革新などから理解する。 ・成長するインドの工業と、経済発展をリードしているIT産業について理解する。 ・イスラームの歴史やイスラームが人々の生活にどのような影響を与えているかを考える。 ・この地域の産油国が、石油資源の開発と利用をどのように進めてきたかを理解する。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。

	学期・月等	単　　元	学　習　内　容	考える力
学習内容と流れ	12月	植民地支配の歴史と人々の生活の関わり ―サハラ以南アフリカ― 地域統合が人々の生活や産業に与える影響 ―ヨーロッパ―	・ヨーロッパ諸国による植民地支配の歴史と、モノカルチャー経済などに代表される、その影響について理解する。 ・ヨーロッパのキリスト教に深く結びついた文化と、宗派や言語の多様性について理解する。地域による自然環境に対応したヨーロッパの農業について理解する。 ・ヨーロッパではどのような工業が盛んなのか、産業の発達の歴史と、近年の工業地域の変化とその特徴を理解する。 ・EUの歴史と現在の課題について考える。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
		国家体制の変化と人々の生活の関わり ―ロシア―	・ロシアの自然環境と人々の暮らしの特徴を考える。 ・ロシア革命、冷戦、冷戦終結という時代の流れの中で、政治体制や経済がどのように変化してきたかを理解し、現在の課題を考える。	・統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
	1月	産業力が世界の生活文化に与える影響 ―アメリカ合衆国―	・移民の歴史に注目し、多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。 ・アメリカ合衆国の自然環境に適した農業・地域の特徴とその背景について理解する。その上で、現在の課題について考える。 ・アメリカ合衆国における工業の変遷と課題について考える。	・統計資料や図表を読み取り、文章で表現する.日本との相違点と共通点を整理する。
	2月 〜 3月	移民の歴史と人々の生活の関わり ―ラテンアメリカ―	・ラテンアメリカの歴史的背景と各国の人種・民族構成の違いについて理解する。 ・先住民とさまざまな地域の文化や伝統が融合した、ラテンアメリカの独特な文化について理解する。	・統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
学習の留意点・評価など	映像資料を利用し、世界の文化や暮らしの様子を具体的にイメージしやすいように工夫する。 各国の文化や社会の特色を考えさせる際に、思考ツールを利用させることで比較・分析を容易にする。			

教科名	地　　歴	科　目　名	日本史探究詳説日本史（山川出版社）
対象学年	高校２年	コース・選択等	コースⅡ（社会教科内選択）
単位数	３単位	教　科　書 （出版社）	日本史探究詳説日本史（山川出版社）
使用教材	詳説日本史探究（山川出版社）／詳説日本史整理ノート（山川出版社）／新詳日本史（浜島書店）／日本史用語集（山川出版社）／日本史一問一答（東進ブックス）／ゼミナール（浜島書店）		
学習のねらい	原始・古代～中世までにおける日本の歴史について、通史（政治史・外交史を中心に）の理解を深める。中学までに学習した日本史の基礎知識を掘り起こし、かつ前期中等教育では触れることのなかった詳細を正確に認識させる。その上で、大学受験のために必要な基礎知識を定着させ、高３でのさらなる時代の理解につなげられるよう、高２では学習の方法にも意識した授業展開を心がけたい。原始（先土器）から近世（江戸時代）までを履修目標とする。		

	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留意点
学習内容と流れ	１学期 ４月	文化のはじまり 縄文時代、弥生時代	○人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ○大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。	資料などを基に、各時代の社会背景や流れについて思考させた上で、知識の習得をさせる。各時代の為政者を中心に、政治史を扱う。
	５月 （中間）	古墳時代、飛鳥時代	○地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ○ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。	
	６月 （期末）	奈良時代（１） 奈良時代（２） 平安時代（１）	○律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 ○律令体制の完成期としての奈良時代について、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ○平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ○平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。	
	７月	平安時代（２）	○藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。 ○律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ○地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏を例にとって考察する。	
	２学期 ９月	平安時代（３）	○院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ○政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平治政権の特性について考察する。	
	10月 （中間）	鎌倉時代（１） 鎌倉時代（２）	○鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ○承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。	

	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留意点
学習内容と流れ	11月	鎌倉時代（3）	○蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が鎌倉幕府の衰退につながっていくことを理解する。	
	12月（期末）	室町時代（1） 室町時代（2） 戦国時代	○鎌倉幕府の滅亡、南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ○庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、室町幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ○応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連付けて考察する。	
	1月	織豊政権 江戸幕府の成立 江戸時代中期	○大航海時代とよばれる世界的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察できる。 ○中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問を表現できる。 ○江戸時代前期の特色を平和と秩序の視点から、権力の集中や価値観の変化を踏まえて考察できる。	
	2月	江戸時代後期① 江戸時代後期②	○幕藩体制が動揺した原因を、国際環境の変化や貨幣経済の浸透を踏まえて多面的・多角的に考察することができる。	
	3月	（学年末考査）		
学習の留意点・評価など	単なる語句の暗記に陥らないよう、各時代の流れを理解することを重視する。 日本史学習の基礎知識を、大学受験としての定着もふまえて意識・理解させる。 科目や単元（時代）ごとの理解を深め、思考力を養うための探究的な課題を随時取り入れる。 可能であれば、生徒各自で演習を行っていけるよう、学習の方向性を示唆する。			
備　考				

教科名	地　　歴	科　目　名	世界史探究
対象学年	高校２年	コース・選択等	コースⅡ
単位数	３単位	教　科　書 （出版社）	世界史探究詳説世界史Ｂ（山川出版）
使用教材	授業用詳説世界史整理ノート世界史探究（山川出版社） 最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 世界史一問一答探究対応版（Gakken）		
学習のねらい	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留意点
	４月	第１章　文明の成立と古代文明の特質	人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気づくと同時に、人類と言語の分化を理解する。西アジア世界の風土、オリエント文明の盛衰を理解する。	グラフ、図、資料などから、その時代の社会状況を考えさせるように指導する。
	５月	第２章　中央ユーラシアと東アジア世界 第３章　南アジア世界と東南アジア世界の展開	南アジア・東南アジアの風土と諸民族、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、両世界の形成過程を理解する。東アジアの風土、中国文明の起源と殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。先住民によるアメリカ文明の形成とその特色を理解する。	
	６月	第２章　中央ユーラシアと東アジア世界 第３章　南アジア世界と東南アジア世界の展開	東アジアにおける北方民族の動向と、魏晋南北朝という中国における分裂と動乱の時代を理解する。隋唐帝国の国家制度と、隣接する東アジア文化圏諸国の動向を理解する。契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。	
	６月 ７月	第２章　中央ユーラシアと東アジア世界 第３章　南アジア世界と東南アジア世界の展開	内陸アジアの自然と風土、ここに台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。内陸アジアにおけるトルコ化とイスラーム化の進展を理解する。	
	７月	第４章　西アジアと地中海周辺の国家形成 第５章　イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第６章　イスラーム教の伝播と西アジアの動向	イラン人の活動を理解する。地中海世界の風土、を理解する。 イスラーム成立の背景とその特質を理解する。アラブ人によるイスラーム帝国の発展、イスラーム世界の形成と拡大の過程を理解する。	

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留意点
	9月	第4章　西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章　イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第6章　イスラーム教の伝播と西アジアの動向	イスラーム文明の特質とその影響、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。	コンセプトマップなどを利用して、事項の関連づけを考える。またそのマップを他者に説明することによって、表現する力を養う。
	10月	第7章　ヨーロッパ世界の変容と展開	地中海世界が解体した後、キリスト教を基盤とするヨーロッパ世界が東西に形成され、変動していった過程と、両世界それぞれの独自の性格を理解する。十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。教会建築、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。	
	11月	第8章　東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第9章　大交易・大交流の時代	モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響の大きさを理解する。 ユーラシアの陸と海のネットワークを背景に諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを理解する。	
		第10章　アジア諸帝国の繁栄	16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解する。明・清帝国と朝鮮や日本の関係、東南アジア世界の動向を理解する。トルコ・イランからインドに誕生したイスラーム帝国の動向を理解する。	
	12月	第11章　近世ヨーロッパの動向	大航海時代の到来、ルネサンスと宗教改革といったヨーロッパ世界の拡大と変革の動きを理解する。主権国家体制の特色と、それを形成したヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	
	1月			
	2月	第11章　近世ヨーロッパの動向	17～18世紀におけるヨーロッパ諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。17～18世紀におけるヨーロッパ文化の特色を理解する。	
学習の留意点・評価など		まず通史を、あまり細かい事項にとらわれることなく、流れを中心に学ぶ事を心掛ける。授業で学んだ事を、お互いに発表し合うことによって、各々の理解度を確認する。		
備　考				

教科名	地　　歴	科　目　名	歴史と地理
対象学年	高校２年	コース・選択等	コースⅠ（２選１）
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	―――
使用教材	『明解　歴史総合』（帝国書院） 『明解　歴史総合図説　シンフォニア』（帝国書院） 『新詳地理資料　CMPLETE2024』 プリント・地図・視聴覚教材など		
学習のねらい	世界の国々の地理的特徴を理解する。理解を深めるために比較の視点を用いる。 榮光館や紅茶などモノから歴史を見ることで歴史を学ぶことへの興味を引き出し、深い学びへと導く。 日本の歴史に関わる内容のうち、特に江戸時代後期以降の日本と周辺地域や諸外国との外交関係や文化交流に着目し、考察する。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留意点
	４月	日本の近代化と金城学院の歴史	榮光館でFeel度Walkを実施し身近な歴史的建造物を学びの素材として活用する。これにより歴史学習への興味を引き起こす。	情報収集力・観察力を養う。
	５月 〜 ７月	世界の国々と暮らし イギリスの地理 幕末の外交と国際交流	自然環境と人々の暮らしのありかたにどのようなつながりがあるかを考える。 イギリスの歴史を学ぶ前提として地理的な知識を得る。 日本の歴史のうち、幕末の外交と海外との交流について学ぶ。	統計資料やその他の資料、図表を読み取り、課題について考察する。
	９月 〜 11月	長崎の歴史と世界遺産 イギリスの歴史	修学旅行がよりよい学びの機会となるように、長崎の歴史と世界遺産について学習する。 紅茶という身近なモノからイギリスの歴史をみることで、世界システムの視点から歴史を考察する。	統計資料やその他の資料、図表を読み取り、課題について考察する。
	11月 〜 ２月	イギリスの歴史 地球市民 明治期の国際関係と国際交流	パーム油に着目し、わたしたちの暮らしと熱帯雨林の関係を考える。 明治時代に入ってからの外交・国際関係と国際交流について学ぶ。	ワークショップを行い、対話による学びが思考を深めることを体感させる。

学習の留意点・評価など	評価は学期末試験（年３回）・平常点による。 チームで対話をすることで、学習課題の理解を深めるようにする。
備　考	

教科名	地　　歴	科　目　名	世界史探究
対象学年	高校３年	コース・選択等	コースⅠ必修
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	世界史探究 高校世界史（山川出版社）
使用教材	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）		
学習のねらい	グローバル化が進む現代社会において、中国等の東アジア世界・文化圏の国々に特に着目し、その歴史が今の日本や日本を取り巻く地域情勢に大きく影響していることを理解する。その上で、「歴史」が様々な社会的背景や権力関係の中で生まれたこと、あるいはどの立ち位置で「歴史」は語られるのかといった「歴史」への複数のまなざしを考える力を養う。知識としての歴史だけでなく、思考としての歴史を理解することで、自文化を相対化する視点をみにつける。 また、「世界史」や「日本史」という大きな枠組みの歴史だけでなく、現在私たちが生きていることも歴史の一部と考えることで、「歴史」をより日常的なものとして考える視点を養う。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留　意　点
	４月	東アジア文化圏の形成	・隋・唐が形成した国家・社会、国際関係について探究する。 ・トルコ系やイラン系の人々の活動を考察し、隋・唐の成立や発展に与えた影響を理解する。 ・隋・唐の皇帝や貴族による律令政治を考察し、隋・唐の国家・社会の秩序やその文化、国際関係について理解する。	隋・唐が形成した国家・社会、国際関係について探究する。
	５月	宋とアジア諸地域の自立化	・宋とアジア諸地域のつながりや影響を分析し、宋の東アジアにおける影響力について探究する。 ・周辺諸地域で政権交代があいついだ状況を考察し、北方諸民族が中国の影響を受けたことを理解する。	唐から宋にかけての支配者層の入れ替わりや周辺所民族の侵入について多面的・多角的に考察し再定義することで、中国社会が周辺諸地域に与えた影響を探究する。
	６月	モンゴルの大帝国 アジア交易世界の興隆	・モンゴル帝国の拡大と影響について分析し、モンゴル帝国の歴史的意義を探究する。 ・モンゴル帝国によりユーラシアの統合がおこなわれた状況を考察し、「世界の一体化」の一端が形成されたことや当時の交易への影響を理解する。 ・モンゴル帝国解体後の朝鮮半島の状況や、明の樹立などの経緯について考察し、各地の交易との共通点や相違点と、中国の朝貢貿易の特色について、理解する。 ・明の時代の交易の状況と税制との関わりを考察し、当時の社会への影響や今日への影響、その意義や特色を理解する。	モンゴル帝国の形成により東西交易のネットワークが形成されたことを考察し、大都を軸にアジアを中心とした「世界の一体化」が進められたことを理解する。 明朝の朝貢貿易が展開される中、周辺諸国との関係や異文化の流入など中国へもたらされた変化を多面的・多角的に考察し、再定義する。

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留　意　点
	7月 9月	東アジアの激動 アジア諸国の変革と民族運動	・欧米諸国に開国要求に対する清朝・日本・朝鮮各国の対応と、その後の東アジアの国際関係を探究する。 ・明治政府が推進した近代化政策ににについて考察し、朝鮮を開国させるなど対外進出により東アジアの国際秩序を変容させたことを理解する。 ・清朝の改革の失敗と中華民国の建国、インド、東南アジア、西アジアの民族運動の展開を探究する。	清朝が不平等条約を締結する過程とロシアの東進の状況、開国後の日本の対外進出を多面的・多角的に考察し、東アジアの国際秩序の変容を理解する。 列強の進出に抵抗するアジア諸国の民族運動、立憲運動の展開を多面的・多角的に考察し、アジア諸国の変革を理解する。
	10月 11月	アジア・アフリカ地域の民族運動 満州事変と日中戦争 第二次世界大戦	・第一次世界大戦後のアジア・アフリカ諸地域で展開した民族運動を探究する。 ・第一次世界大戦が東アジア各地の社会・経済に与えた影響を考察し、日本の進出に対して中国や朝鮮でおこった抵抗運動を理解する。 ・第二次世界大戦がどのような対立構造を持ち、どのように展開していいたのかを分析し、大戦がもたらした意義について探究する。	アジア・アフリカ諸地域の民族運動と列強の対立を多面的・多角的に考察し、第一次世界大戦後の世界を理解する。 第二次世界大戦について多面的・多角的に考察し改めて第二次世界大戦を定義することで、第二次世界大戦の多様性を理解する。
	12月	中華人民共和国の成立と東アジア 中ソ対立と文化大革命	・第二次世界大戦後の国際秩序と、東西冷戦やアジア諸国の独立の過程について共通点や相違点を理解する。 ・現代中国の社会・文化の特色、東西陣営との対立にどのように対応したかを理解する。	新しい国際秩序の形成について多面的・多角的に考察し改めて戦後の新しい国際秩序を定義することで、多様性を理解する。
	1月	第三世界の開発独裁 中国の動向と民主化の広がり 今日の世界/東アジアの動向	・第三世界の開発独裁と東南・南アジアの自立化について冷戦体制の動揺とどのようなかかわりがあるのか理解する。 ・冷戦体制の動揺の結果、中国社会がどのような変化や対応したのか理解する。 ・冷戦体制終結後も共産党の一党支配を維持した中国でおこった民族問題を考察し、韓国・北朝鮮・台湾の動向を理解する。	冷戦終結後のアジア各国が向き合う諸問題を多面的・多角的に考察し、グローバリゼーションが進む世界の課題への対応に国際的協力が必要であることを理解する。
学習の留意点・評価など	様々な歴史観に触れ、それらによる視点を養うことも目的の一つとする。また、モノや資料を読み解く力を身につけるとともに、それらの資料がどのような文脈において語られているかを考える。世界史が「歴史」の一分野であることを認識し、様々な視点から「歴史」を考えるヒントを示す。 評価方法としては、歴史用語や知識の暗記力ではなく、それらを論理的に組み合わせ、思考し、文章で表現する力を重視する。			

教科名	地　　歴	科　目　名	日本史探究
対象学年	高校３年	コース・選択等	コースⅡ（社会教科内選択）
単位数	４単位	教　科　書 （出版社）	詳説日本史 日本史探究（山川出版社）
使用教材	詳説日本史探究（山川出版社）／詳説日本史整理ノート（山川出版社）／新詳日本史（浜島書店）／日本史用語集（山川出版社）／日本史一問一答（東進ブックス）／ゼミナール（浜島書店）		
学習のねらい	近世から現代にかけての日本史の流れを大きく理解する。特に、近現代史では日本と世界の関係を学ぶことによって、現代起こっている諸問題を理解するための能力を養う。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留　意　点
	１学期 ４月 ５月	第Ⅲ部　近世 第９章　幕藩体制の成立と展開 ③幕政の安定 ④経済の発展 ⑤元禄文化 第10章　幕藩体制の動揺 ①幕政の改革 ②宝暦・天明期の文化 ③幕府の衰退と近代への道 ④化政文化 第Ⅳ部　近代・現代 第11章　近世から近代へ ①開国と幕末の動乱 ②幕府の滅亡と新政府の発足 第12章　近代国家の成立 ①明治維新と富国強兵 ②立憲国家の成立	幕藩体制が動揺した原因を、国際環境の変化や貨幣経済の浸透を踏まえて多面的・多角的に考察する。 明治維新とその後の日本の変容について理解する。	歴史総合の内容も踏まえ、近代化に至る過程に留意する。
	６月 ７月	第13章　近代国家の展開 ①日清・日露戦争と国際関係 ②第一次世界大戦と日本 ③ワシントン体制 第14章　近代の産業と生活 ①近代産業の発展 ②近代文化の発達 ③市民生活の変容と大衆文化 第15章　恐慌と第二次世界大戦 ①恐慌の時代 ②軍部の台頭 ③第二次世界大戦	近代国家として歩み出した日本とアジア諸国との関係性の変容や国際的地位の変化について理解する。 明治・大正期の経済の動きや文化について理解する。 世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について理解する。世界恐慌後の各国の政治的判断と大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響について追及する。	成熟した政権の問題点に留意する。 世界史の動きにも留意する。

	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留　意　点
学習内容と流れ	2学期 9月 10月	第16章　占領下の日本 ①占領と改革 ②冷戦の開始と講和 第17章　高度成長の時代 ①55年体制 ②経済復興から高度経済成長へ 第18章　激動する世界と日本 ①経済大国への道 ②冷戦の終結と日本社会の変容	アメリカ占領下の日本及び民主改革、55年体制から平成不況までの流れを把握させる。	戦後改革が現在の日本にどのような影響を与えているかも留意する。
	11月	テーマ史	「経済史」「外交史」「文化史」等を通史で復習する。	入試問題は、テーマ史を扱うことが多いため、テーマ別の流れを把握できるように留意する。
	12月	共通テスト演習	共通テスト対策	予想問題を解き、共通テスト前の総仕上げをする。
学習の留意点・評価など		通史としての日本の歴史と、それにともなう歴史的な洞察力を身につけ、社会全体の在り方を考える。その際、単なる用語の暗記に終始しないよう、各時代の流れを理解することを意識し、それぞれの出来事が発生した時代背景や他の事象との因果関係にも着目させる。また、科目や単元（時代）ごとの理解を深め、思考力を養うための探究的な課題を随時取り入れる。授業内容を補完するものとして、時代劇や歴史小説・漫画など、生徒が日本史に興味がもてるようなものについても、適宜紹介していきたい。		
備　考		受験生としての学習への取り組みを、個々の生徒が持てるように普段からの授業には気を配りたい。		

教科名	地　　歴	科　目　名	世界史探究
対象学年	高校３年	コース・選択等	コースⅡ（教科内選択）
単位数	４単位	教　科　書 （出版社）	詳説世界史　世界史探究 （山川出版社）
使用教材	最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 詳説世界史探究整理ノート（山川出版社）歴史総合要点チェック（山川出版） 世界史Ｂ一問一答完全網羅版（Gakken） 30テーマ世界史問題集（山川出版）		
学習のねらい	グローバル化が進む現代社会において、近代以降の歴史が大きく影響していることを理解する。その上で、「歴史」が様々な社会的背景や権力関係の中で生まれたこと、あるいはどの立ち位置で「歴史」は語られるのかといった「歴史」への複数のまなざしを考える力を養う。知識としての歴史だけでなく、思考としての歴史を理解することで、自文化を相対化する視点をみにつける。 また、「世界史」や「日本史」という大きな枠組みの歴史だけでなく、現在私たちが生きていることも歴史の一部と考えることで、「歴史」をより日常的なものとして考える視点を養う。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留　意　点
	４月	近世・近代ヨーロッパ 世界の形成・発展 近代国民国家の発展	ヨーロッパにおける近世の国家、そして、環大西洋革命を経て、近代の国民国家がどのように成立したかを考える。国民国家というものが自明なものではなく、「創られるもの」という視点に立ち理解する。	教科書において、なぜこの時代から「国家の歴史」が全面にでているのかを考える。
	５月 ６月	アジア諸地域の動揺 帝国主義と アジアの民族運動	ヨーロッパの進出により、アジア地域での政治の変化、植民地化に伴う民族主義の芽生えを理解する。また、アジアのナショナリズムの高まりが、ヨーロッパとは異なる展開をみせることを理解する。 列強による帝国主義の中で、植民地獲得が経済的にどのような意味があるのか、また植民地化を可能にしたヨーロッパの思想の背景には何があるのかを理解する。	現在、問題になっている中東の問題、またグローバルな視点から自由貿易協定などの問題と政治的、経済的に関連付けて理解する。
	７月 ２学期 ９月	二つの世界大戦	帝国主義の覇権争い、バルカン半島における民族問題からはじまった一次世界大戦、世界恐慌に対応するためのブロック経済という経済戦略から起こった第二次世界大戦を学習する。二つの戦争と戦間期における歴史を学習することで、政治、経済、民族、国家というワードが複雑に絡み合いながら戦争に至った理由を探る。また、一次大戦後、ウィルソンが提唱した民族自決の権利が二次世界大戦にもたらした影響や、二次大戦後の国際連合の枠組みなど現在に繋がる論理を理解する。	様々な映像資料、当時の資料、戦後書かれた文字資料を参考にする。

	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留　意　点
学習内容と流れ	10月 11月	冷戦と第三世界の自立	戦後、国際社会の中心となったアメリカとソ連の冷戦、アジア・アフリカの自立について学習する。東西陣営を支えた経済的論理と軍備拡大や、一方でアジア・アフリカの自立を促す様々な運動を理解する。 また、いわゆる9.11以降、様々な意味で注目される中東地域であるイスラエルとアラブ諸国の軋轢の歴史的背景やそこに絡む石油などの経済的理由から現代の問題についても考える。	
	12月	現代の世界	ソ連解体、東欧社会主義圏の民主化運動から国家の誕生、一方でヨーロッパ連合の登場による新しい共同体の成立を学習する。アフリカにおいては、独立後むしろ活発化した紛争の背景を理解する。現代社会に直結する問題を歴史的な意義を踏まえて理解する。	現在の私たちが歩んでいる歴史と、「世界史」を考える。
学習の留意点・評価など	近代以降のヨーロッパ中心の歴史観を相対化する視点を養うことを目的とする。また、モノや資料を読み解く力を身につけるとともに、それらの資料がどのような文脈において語られているかを考える。世界史が「歴史」の一分野であることを認識し、様々な視点から「歴史」を考えるヒントを示す。 評価方法としては、歴史用語や知識の暗記力ではなく、それらを論理的に組み合わせ、思考し、文章で表現する力を重視する。			
備　考				

教科名	地　　歴	科　目　名	歴史と地理
対象学年	高校３年	コース・選択等	コースⅠ（A選１）
単位数	１単位	教　科　書 （出版社）	―――
使用教材	３年Ⅰコース「世界史探究」教科書・資料集 プリント・新聞・地図・視聴覚教材など		
学習のねらい	○歴史分野と△地理分野の２人の教師がオムニバス方式で担当し、２学年次から継続して、現代の社会のあるべき姿を考えさせていく。 ○近代以降の世界情勢について様々な視点から探究し、あるべき未来像を探る。 △自然環境と社会環境を合わせた地理的環境を通して世界諸地域の独自性と共通性を見い出し、考える。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留意点
	４月	○現在の諸課題について学ぶ① △世界遺産　基礎	○現在、世界では何が起きているのかを学ぶ。 △世界遺産検定４級の内容を学習。世界遺産の基礎を学ぶ。	
	５月	○現在の諸課題について学ぶ② △世界遺産　日本の遺産１	○その事象にはどのような歴史的背景があるのかを学ぶ。 そのうえで、現在、どのような課題があるのかを理解し、自分事として捉える。 △具体的に、日本の世界遺産の概略を学ぶ。	
	６月	○現在の諸課題について学ぶ② △世界遺産　日本の遺産２	○現在、世界では何が起きているのかを学ぶ。 △同上	
	７月	○現在の諸課題について学ぶ② △ワークショップ	○その事象にはどのような歴史的背景があるのかを学ぶ。 そのうえで、現在、どのような課題があるのかを理解し、自分事として捉える。 △現在世界遺産に認定されていないものの中で、世界遺産としての登録を勧めたいものを、その理由を含めて発表する。	
	９月	○現在の諸課題について学ぶ③ △ワークショップ	○現在、世界では何が起きているのかを学ぶ。 その問題の歴史的背景について理解し、自分事として捉える。 △同上	

学習の留意点・評価など	評価は中間試験・１学期期末試験（年２回）・レポート・プレゼンテーション・平常点による。
備　考	

教科名	地　歴	科　目　名	World Studies
対象学年	高校３年	コース・選択等	コースⅠ（選択）
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	なし
使用教材	各種ワークシート/視聴覚教材／ワークショップ教材		
基本的な問いと学習のねらい	１学期	基本的な問い アメリカ合衆国は、多文化共生を実現するためにどのような歴史をたどってきたのか。そして、現在、どのような課題があるのか。 学習目標 移民の国のアメリカ合衆国のあゆみを知ることで、多文化社会の利点と課題について考える。 どうすれば多文化共生社会が実現するかを考える。 英語で自分の考えや意見を伝えることができる。	

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	学　習　内　容	英　語　活　動
	１学期 ４月	多文化社会 アメリカ合衆国 地理	北アメリカの地理的基礎知識を習得する。	英文資料を使って、アメリカ合衆国の政治組織について学ぶ。
		多文化社会 アメリカ合衆国 地理	アメリカのいくつかの州の歴史を学ぶ。	Explore San Diego サンディエゴの歴史・文化・産業を英語で学ぶ。 サンディエゴ出身の先生にサンディエゴを紹介してもらい、質疑応答をする。
	５月	政治制度 多文化社会 アメリカ合衆国 建国と移民の歴史	アメリカの政治政党を学ぶ。 大統領選挙の仕組みを学ぶ。 植民地時代から独立までの主な歴史事項をおさえる。 ヨーロッパ系移民の流入の歴史に関する要点をおさえる。 ネイティブアメリカンの歴史について学ぶ。	
	６月	多文化社会 アメリカ合衆国 公民権運動	大西洋三角貿易と奴隷解放までの歴史を学ぶ。 「分離すれども平等」の原則が確立されたことを知る。 ローザ・パークス事件から公民権法成立までの主な出来事を学ぶ。 アファーマティブアクションについて学ぶ。	Little Rock事件の写真を読み取り、英語でキャプションや台詞を考える。 アメリカの文化を英語で学ぶ。
	７月・ ９月	多文化社会 アメリカ合衆国		公民権運動に関する英文資料を読み取る。
	金城学院大学に内部推薦で進学する生徒は、金城学院大学の講義に参加（10月以降）			

学習の留意点・評価など	授業は参加型で行い、学習課題に対して積極的に学ぶ態度を育成するよう心掛ける。個人学習と協同学習を組み合わせることで、思考することを促し、知識の定着を図る。社会や文化の多様性に気づかせ、違いから学ぶことを心掛ける。

教科名	地　歴	科　目　名	地 理 探 究
対象学年	高校３年	コース・選択等	３年コースⅢ（C２）
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	新詳地理探究（帝国書院）
使用教材	実践攻略大学入学共通テスト2027地理総合・地理探究問題集（実教出版） 新詳地理資料COMPLETE2025（帝国書院） 地理データファイル2026年度（帝国書院）		
学習のねらい	受験者を対象とし、基礎事項を確認して入試問題等を演習、実力を養う。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	ね　ら　い	留　意　点
	４月 〜 10月	地誌分野 （アジア・ヨーロッパ・オセアニア・アフリカ）	他地域との差異を明らかにして、それぞれの地域の自然・文化・産業の特徴を把握する。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本をはじめとした他地域との相違点と共通点を整理する。
	11月 〜 12月	系統地理分野の演習 地形図分野の演習 総合問題演習	既習事項を復習しながら、問題演習を行う。問い立てに対して、解答（結論）に至る過程を重要視し、論理的思考を育み、実践力を身につける。	各種統計資料・図表を読み取り、社会的事象の因果関係を考察し、問いに対する解答を模索する。 その際に、既習した知識を統合しながら、問題の意図を読み取り、論理的思考を繰り返すことで、解答を導いていく。

学習の留意点・評価など	映像資料を利用し、世界の文化や暮らしの様子を具体的にイメージしやすいように工夫する。各国の文化や社会の特色を考えさせる際に、思考ツールを利用させることで比較・分析を容易にする。問題演習を通じて、論理的思考力を育成し、実践力を育む。

教科名	公　民　科	科　目　名	公　　共
対象学年	高校１年	コース・選択等	必　　修
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	公共（教育図書）
使用教材	・最新図説公共（浜島書店）		
学習のねらい	学習を通じて、現代社会の諸課題に関する基礎的な知識を習得するとともに、課題解決に向けて主体的に考え、判断する力を育成することを目指す。 社会課題に対する見方・考え方は多様であり、多面的であることを重視し、その複数性の中で生徒が自ら考え、対話を通じて課題に向き合う姿勢を養うことで、公共的存在としての資質・能力を育成することに重点を置く。		

学習内容と流れ

学期・月等	単　　元	学習内容	留　意　点
１学期	現代の諸課題 経済	職業選択 現代の企業 市場経済 金融 財政 財政と税 国際経済	現代の経済課題を扱う際には、資料を活用し、複数の視点から課題を検討できるようにする。 経済の学習を通して、社会の課題を自分ごととして捉え、解決に向けて主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育てる。
２学期	公共と人	人は１人では生きられない 人はどのようにつながるのか 対話から生まれる公共 社会はどのように生まれたのか 自由と正義の実現を目指して 功利主義と義務論	先哲の思想家が示した公共性の理解を手がかりにしながら、生徒同士が対話を通して多様な考えに触れ、より良い社会を探究することができる学習環境を整える。
	公共の原理	分配方法を考える 民主政治と人類の歴史 世界の政治体制 日本国憲法	現代社会の政治の在り方を多面的に捉え、資料を元に筋道を立てて考えることが出来るようにする。
	現代の諸課題法	男女平等 多様な契約 消費者の権利と責任 司法と裁判	現代の諸課題と法の意義を関連付けて考え、根拠に基づいて真理を求め、公共の担い手として判断する姿勢を養う。
３学期	現代の諸課題 政治　他	政治参加 社会保障 安全保障 国際社会と日本 持続可能な社会を目指して	主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。

学習の留意点・評価など	・概念や理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いているか。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができるか。 ・現代の諸課題を多面的・多角的に考察し、根拠に基づいて考えようとする姿勢が見られるか。

教科名	公　民　科	科　目　名	社 会 問 題
対象学年	高校２年	コース・選択等	コースⅠ（２選１）
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	―――
使用教材	・新聞記事 ・自作プリント ・その他		
学習のねらい	年間テーマ「ともに生きる」に基づき、現代のさまざまな「社会問題」について理解するとともに、新聞記事の収集などをとおして「社会問題」についてより深く考察しながら、「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究する。		

学習内容と流れ	学期・月等	学　習　内　容	留　意　点
	４月 ５月	○社会問題とは何か ・いくつかの社会問題について取り上げ、資料をもとに分析して現状を理解する。 ○新聞の読み方 ・新聞記事の構成・概略など ・新聞記事の収集方法など	・映像の中にある社会問題を見つけさせる。 ・現状分析だけでなく、解決に向けて活動している団体や個人を取り上げる。 ・新聞の読み方について、新聞の構成や記事の収集方法について理解するとともに、新聞から情報を収集する場合には、できる限り複数の新聞社の記事を用いる必要があることなどに留意する。
	６月 ７月	○テーマ１「生命」 ・レクチャー　・課題の設定 ・情報の収集　・整理・分析 ・まとめ・表現	・「生命」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。
	８月	○夏休みを利用して新聞切り抜きレポートの作成	・新聞切り抜きのレポートを作成して、「社会問題」の現状と課題について、より深く考察する。
	９月 10月	○新聞切り抜きレポートの発表 ○テーマ２「平和」 ・レクチャー　・課題の設定 ・情報の収集　・整理・分析 ・まとめ・表現	・要点をまとめて、誰にでもわかるように発表する。 ・「平和」に関する問題の現状と課題について理解し、そこには人がいる（居る・要る）ことを確認する。修学旅行を念頭において学習する。
	11月 12月	○テーマ３「福祉」 ・レクチャー　・課題の設定 ・情報の収集　・整理・分析 ・まとめ・表現 ○外部講師による特別授業	・「福祉」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。 ・外部講師の説明をよく聞いて、積極的に質問する。
	１月 ２月 ３月	○テーマ４「孤立・孤独」 ・レクチャー　・課題の設定 ・情報の収集　・整理・分析 ・まとめ・表現	・「孤立・孤独」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。

学習の留意点・評価など	・年間テーマ「ともに生きる」に基づいて、現代のさまざまな「社会問題」について理解することができたか。 ・「そこには人がいる」として、そこに存在している人に気づき、社会問題を解決しようと行動する人に気づく。 ・映像や新聞記事などを通して「社会問題」についてより深く考察することができたか。 ・「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究することができたか。

教科名	公　民　科	科　目　名	社 会 問 題
対象学年	高校３年	コース・選択等	コースⅠ（A１）
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	―――
使用教材	・新聞記事 ・自作プリント ・その他		
学習のねらい	年間テーマ「ともに生きる」に基づき、現代のさまざまな「社会問題」について理解するとともに、新聞記事の収集などをとおして「社会問題」についてより深く考察しながら、「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究する。		

学習内容と流れ	学期・月等	学　習　内　容	留　意　点
	４月 ５月	○テーマ１「貧困」と「環境」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現	・「貧困」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。
	６月 ７月	○テーマ２「ジェンダー」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 ○外部講師による特別授業	・「ジェンダー」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。 ・外部講師の説明をよく聞いて、積極的に質問する。
	９月 10月	○「社会問題」に関する講義 ・レクチャー ・まとめ・表現	・「社会問題」に関する専門的な講義を受け、高校で学んだ内容についての理解を深める。さらに、「ともに生きる」ことができる社会人になるために必要なことを自覚する。

学習の留意点・評価など	・年間テーマ「ともに生きる」に基づいて、現代のさまざまな「社会問題」について理解することができたか。 ・新聞記事などをとおして「社会問題」についてより深く考察することができたか。 ・「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究することができたか。

教科名	公　民　科	科　目　名	政治・経済
対象学年	高校３年	コース・選択等	コースⅡ（B２）、コースⅢ（C２）
単位数	２単位	教　科　書 （出版社）	政治・経済（数研出版）
使用教材	最新政治・経済資料集2025（第一学習社） 2026公共、政治・経済実践攻略大学入学共通テスト問題集（実教出版）		
学習のねらい	政治・経済のさまざまな課題について主体的に考察し公正に判断するとともに、他者と共に生きる人間としての在り方生き方について考察する力を身に付ける。		

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	学　習　内　容	留　意　点
	４月	１民主政治の基本原理と展開	・民主政治と基本原理 ・民主政治の展開 ・政治体制の比較	民主政治がヨーロッパで生まれた経緯や社会契約説、権力分立の思想、議会制民主主義の成立と仕組みについて理解する。
		２日本国憲法と基本的人権	・日本国憲法の基本的性格	大日本帝国憲法の性格を学ぶとともに、日本国憲法が制定されるまでの経緯について学習し、日本国憲法の三大原理について理解する。
			・基本的人権の保証	基本的人権と法の支配の意義、自由権から社会権へ向かう人権の歴史的展開、人権保障の国際的な展開について理解する。
	５月		・日本国憲法の平和主義	日本国憲法に定める平和主義の内容を確認し、日本の防衛と自衛隊のかかわり、安全保障に関する日本とアメリカの関係などについて考察する。
		３日本の政治機構	・国会のしくみと役割	議院内閣制の仕組み、内閣の権限と国の行政組織を理解するとともに、行政の課題について考察する。
			・内閣と行政機構	三権の関係について理解し、国会の役割、構成と運営、現状と改革の動きについて考察する。
			・裁判所のしくみと人権保障	訴訟の種類、司法権の独立の意義と内容、日本の裁判制度、「憲法の番人」としての裁判所、裁判員制度などの司法制度改革について理解する。
			・地方自治のしくみと住民生活	地方自治の意義を確認すると同時に、地方公共団体の組織と働きなどについて理解し、地方自治と国政との関係、住民の政治参加の意義などについて考察する。
	６月	４政治参加と民主政治の課題	・戦後政治と政党	民主政治における政党や利益集団の意義と役割、現状と課題について考察する。
			・選挙のしくみ	近代選挙の四原則、選挙制度の概要、日本の選挙制度の仕組みについて理解し、「一票の格差」など選挙制度をめぐる課題について考察する。
			・世論と情報化社会	・世論の意義を理解し、世論とメディアとの関係、大衆化した社会における政治意識などについて考察する。

	学期・月等	単　　元	学　習　内　容	留　意　点
学習内容と流れ	7月	1 経済活動の意義と経済体制	・資本主義経済の発展と変容 ・経済活動の主体	・産業革命などを契機に資本主義経済が成立したこと、アダム・スミスの考え、資本主義経済の変容と社会主義やケインズの理論、資本主義の現在について理解する。
		2 現代経済のしくみ	・市場経済のしくみ	・市場の仕組み、寡占市場における価格の形成、独占禁止政策について理解する。また、価格機構が十分に働かない市場の失敗について考察する。
			・国民所得と経済成長	・国の経済の指標であるGDPや国富などについて理解し、経済成長の意味や景気の変動について学習する。
			・金融のしくみと租税	・金融システムの仕組み、資金を融通する方法としての金融制度、通貨制度、信用創造について理解する。
			・財政のしくみと租税	・市場経済の限界を補う意味を持つ政府の経済的な活動について理解すると同時に、財政制度、租税と公債、財政問題について考察する。
	9月	3 日本経済と福祉の向上	・戦後日本経済のあゆみ	・第二次世界大戦後の経済復興にかかわる諸改革や高度経済成長の経過や背景について理解する。
			・中小企業と農業・食料	・中小企業の現状と役割、農業の現状と農業に関する諸政策について理解し、諸課題について考察する。
			・公害防止と環境保全	・高度経済成長に起きた公害問題とその後の公害対策、新しい公害と環境保全について理解し、今後における持続可能な社会、循環型社会について考察する。
			・消費者問題と消費者保護	・消費者主権の意味や消費者問題の背景、消費者運動、消費者行政と関連法制の概要を理解し、消費者の自立に向けた取り組みについて考察する。
	7月		・労使関係と労働市場	・労働契約の特性、労働組合、労働運動、労働者の権利の必要性、労働に関する法制を理解する。
			・少子高齢社会と社会保障	・社会保障の意義と制度の歴史、日本の社会保障制度の概略について理解し、少子高齢社会における社会保障制度の在り方について考察する。
		国際政治の動向	・国際社会と国際法	・国家の三要素、主権国家の成立、国家間の諸問題と外交、国際法の意義と種類などについて理解する。
			・国際社会の組織化	・国連の安全保障への取り組みの現状と課題、平和維持活動の役割、国連の経済的・社会的役割について理解し、国際連合の課題について考察する。 ・国際紛争を避けるための勢力均衡と集団安全保障、国際連盟の特色、国連の仕組みについて理解する。
	9月		・戦後国際政治の展開	・第二次世界大戦後の東西の対立、1960年代の緊張緩和、多極化の動き、その後の冷戦の終結、冷戦終結後の紛争と対立などについて理解する。

学習内容と流れ	学期・月等	単　　元	学　習　内　容	留　意　点
		国紗経済の動向	・貿易と国際収支	・貿易の意義、自由貿易と保護貿易の考え方、企業の展開と国際分業の実態について理解する。
			・国際経済のしくみ	・取り引きの決済方法としての外国為替の仕組み、為替レートの変動要因と影響、国際収支の仕組みと黒字や赤字の意味について理解する。
			・地域主義の動き	・1970年代の国際経済の枠組み立て直し、ウルグアイ・ラウンドとＷＴＯの成立、国や地域間の貿易や経済の連携や協定について理解する。 ・ヨーロッパにおけるＥＣやＥＵの展開、アメリカやアジア太平洋地域における地域統合の動きについて理解し、地域統合の進展の理由などについて考察する。
	10月	国際社会の課題と日本の役割	・核兵器の廃絶と軍縮問題	・米ソの軍備拡張競争と反核運動、国連の軍縮に向けた取り組みと成果について理解し、軍縮に伴う課題、信頼を育てることの重要性について考察する。
			・地域紛争と人種・民族問題	・民族と国家の関係がもたらす民族紛争、独立に伴う紛争、国家を持たないことが原因となる民族紛争、民族対立に伴って引き起こされる難民問題について考察する。
			・地球環境と資源・エネルギー問題	・人口の増加や人口構成の変化などの世界の人口問題、資源の需給にかかわる国際的な問題、食料生産や食料不足などの問題について考察する。
			・発展途上国の経済と経済協力	・南北問題の背景、南南問題などの動き、南北格差の是正を進める取り組みについて理解する。
			・日本の国際的地位と役割	・戦後の日本外交のあらまし、国際平和や経済、環境面で日本が果たす役割、国際貢献について考察する。
	11月	受験対策	共通テスト対策	
	12月			
学習の留意点・評価など	他者と共に生きる人間としての在り方生き方について考察する力を身に付けることができたか。 政治・経済のさまざまな課題について主体的に考察し公正に判断することができたか。			